

2005年度総会で思ったこと

総会に毎回真面目に出席しているわけではないのだが（「参加票」は毎回ちゃんと出してます）、今回は昼食時間に余裕もあり、また議案に少しばかり意見もあったので、出席することにした。そのとき思ったことを記してみる。

1. 議場の閉鎖

今回は、会員制度が変わってから初めての総会ということもあり、たぶん出席者確認のためであろうが、総会で議場閉鎖が行われた。聞くところによると初めてではないとのことだが、久しぶりのことでもあり、もっとしっかり周知してもらいたかった。出席票を渡す際にあわせて書面で注意する、退場する人には再入場できないことを確認するなどできたはずである。出席者100人にも満たない総会でそこまで考えるのは負担ではあろうが。

遅れたら一切議場に入れない、というのにも改善の余地がないだろうか。受賞記念講演の席取りのためだけに総会に途中入場しようとする人もいるだろうが、そういう人にも学会運営に少しでも関心を持ってもらうため、議決権・発言権のない傍聴者としてでも入場を認めることがあってよいのではないかと思った。

とまあこんなことを書いてしまったのは、理事長の挨拶に続く表彰式の最中、職場から携帯電話がかかり、留守録メッセージを確認するため退場した私は再入場できず、仕方なく貼り残されたポスターや企業展示などを見て約30分をつぶす羽目になったからである。私1人の出席で総会の議事が左右されることもなかった

だろうが、次回はできれば考えていただければと思う。

2. 表彰式にて

さて、時間は前後するが、こちらが本稿でもともと書きたかったことである。表彰式に出るたび毎回思っていたことでもある。

授賞理由の説明に続き、表彰状と副賞の授与。壇上で事務局員が女性に表彰状と副賞を載せたお盆を渡し、この女性は理事長のところに持って行く。理事長はお盆から表彰状と副賞を取って受賞者に渡す。この女性（必ず「女性」である）の役割はいったい何なのだろうか。事務局員が理事長に渡すことでよいではないか。壇上には今回も立派な生花が飾られていたが、同じようなものなのか。

世間の表彰式を見ると、同様のことは慣習的に広く行われているようである。しかし私たちのような民主的な学会の総会では、あんなことはもうやめることを提案したい。

というわけで、私は2005年度総会に「出席することができなかった」わけだが、いうまでもなく総会は事業計画、予算など私たちの学会運営における最重要事項の決定を委ねられた会議である。会員のみなさんに総会の運営について改めて考えていただくきっかけに拙稿がなれば幸いである。

（気象研究所 山本 哲；現所属 国立環境研究所地球環境研究センター）